

■後藤田正晴 警察官僚として治安維持に辣腕ぶりを発揮「カミソリ後藤田」。政治家としては、自由民主党の重鎮・御意見番。

ごとうだまさはる

- 第一次大戦始1914= 徳島県麻植郡東山村古土地で、後藤田増三郎とヒデの末子四男に生まれる。後藤田家は忌部氏の流れて、庄屋を務め、藍商、造り酒屋を営む旧家。父は自由党の壮士で、稼いだ金を政治活動や教育普及に使い、この時は郡会議長だった。8人の兄弟がおり、長兄は11歳上であった。
- 大暴落・・・1920= 6歳：講堂に父が写真の飾られている東山小学校に入学、成績は常にトップクラスで、学年末ごとに郡長表彰。
- 原敬首相暗殺1921= 7歳：水平社結成・1922= 8歳：父が腎臓病で死去。父の亡骸を引き取ってきた母を峠で迎え、抱きしめられた記憶が鮮明に残る。
- 関東大震災・1923= 9歳：護憲三派圧勝1924=10歳：母も腎臓病で死去。早くに両親を亡くしたことで、孤独感をバネに強く生きるようになった。
- 円本時代始・1926=12歳：一人だけ、姉好子の嫁ぎ先で徳島有数の素封家の井上家(富岡町)に預けられ、西路見小学校に転校し、金融恐慌・・・1927=13歳：姉が母親代わりの長男格で扱われ、不自由なく暮らし、県立富岡中学に入学。柔道部に属し、数学はずばぬけ、英語は全くダメであったが、負けず嫌いで、スジを通すことで、この頃から一目置かれる。
- 満洲事変・・・1931=17歳：長兄が慈恵医大を卒業した年、満洲事変で軍人志望が多くなるなか、あくまでも官僚をめざし、五一五事件・1932=18歳：数学の問題は難しく、英語は易しい水戸高等学校文科乙類に入学、直後に、水戸の橋孝三郎(愛郷塾)が加わった五一五事件が起こる。陸上競技部の寮に入り、人生で最も大きな影響を受けた時代になったという。
- 芥川直木賞始1935=21歳：東京帝国大学法学部法律学科に入学するも、面白くなく、一学期終了後、政治学科に転科、田中戦争始・1937=23歳：外地で働きたいと、満鉄を受験するも試験日を取り違えて不合格。高等文官試験も不合格だったが、健保+総動員 1938=24歳：再び受験し、8番という上位の席で合格、第二次大戦始1939=25歳：卒業し、トップ官庁「内務省」に入省。土木局道路課兼港灣課見習いで、課長灘尾弘吉のもと、事務官細田徳寿の薫陶を受ける。同期同郷の海原治と平井学とともに、「徳島三羽ガラス」と呼ばれ、細田の引きで、大政翼賛会・1940=26歳：富山県の警察部労政課長に転出するが、優遇制度の無い陸軍に徴兵され、台湾歩兵第二連隊に入営。日米開戦・・・1941=27歳：台湾歩兵第一連隊に転属後、甲種幹部候補生に合格し、軍曹に昇進。東京の陸軍経理学校で教育を受け、主計中尉に任官。台北の台湾軍司令部に戻り、台湾総督府の連絡将校となる。
- 創価学会検挙1943=29歳：主計中尉に昇進、持ち前の運と機転によって何度も危機を切り抜け、敗戦・・・1945=31歳：休暇をとり、東京大空襲を経験後帰郷、徳島商工会議所会頭吉見勢之助の養女侑子と結婚式を挙げ、台湾に戻って終戦。台湾に遷駐してきた中国の国民党軍の捕虜になるが、拘束されることなく、「アメリカ船で日本に帰還。内務省に復帰し、神奈川県経済部商政課長に就任、在日朝鮮人にも日本人と平等に物資配給。地方局職員課の事務官となり、内務省職員組合委員長も務める。
- 新憲法施行・1947=33歳：警視總監門叶宗雄の計らいで、警視庁保安部生活課経済第二課長に就任、以後、警察畑が主流になる。極東裁判判決・1948=34歳：内務省廃止で警察官僚に転じ、警視庁警務部警務課長になり、警察人事の刷新に注力。
- 三大事件・・・1949=35歳：東京警察管区本部刑事部長を経て、朝鮮戦争始・1950=36歳：石井榮三の引き抜きで、同警備課長兼調査課長となり、警察予備隊の創設や保安隊の計画策定に従事。独立回復・・・1951=37歳：マデ-事件・1952=38歳：国家警察本部警備部警邏交通課長。二重橋事件が発生し、国会で追求を受ける。
- 55年体制始・1955=41歳：警察庁長官官房会計課長となり、警察力を強化に努める。
- 美智子妃・・・1959=45歳：小林與三次らの引きで、警察庁を離れ、自治庁官房長官から、同庁税務局長となり、料飲税の導入にあたっては、田中角栄ら自民党三役が出してきた修正案を拒絶、クビを覚悟で、原案を押し通す。
- 安保闘争・・・1960=46歳：この年、自治庁が自治省に昇格。全国総合計画1962=48歳：自治事務次官に就いた小林の慰留を振り切り、官房長として警察庁に復帰。
- TV宇宙中継始1963=49歳：警備局長となり、ライシャワー事件の指揮をとって以降、大学紛争始・1965=51歳：警務局長を経て、警察庁次長に昇進。この年からの大学紛争、いざなぎ景気1966=52歳：この年からの三塚塚闘争、霞ヶ関ビル・1968=54歳：全共闘ビ-カ・1969=55歳：\*東大の安田講堂事件で総指揮を執った後、警察庁長官に就任。着任当日、課長以上を集めて訓示を行う。
- 大阪万博・・・1970=56歳：よど号ハイジャック事件、瀬戸内シージャック事件、三島事件、ドルジャック・・・1971=57歳：山岳ベ-ス事件、西山事件、神嶋青年委員会の皇居乱入事件発生し、進退伺いを提出するも。慰留される。土田・日石・ベ-ス証憑事件では標的の1人となり、暴発による郵便局員1人の火傷で難を逃れた。
- 田中国交回復1972=58歳：アメリカ合衆国民間最高功労章。\*テルアビブ空港乱射事件と、頻発する重大事件への対処に追われるが、護衛を断り続けたという。極め付けになった浅間山荘事件を決着させると、退任。自由民主党総裁選挙に勝利した田中角栄に抜擢され、内閣官房副長官に就任。田中の懐刀として辣腕を揮う。
- 石油ショック1973=59歳：田中内閣の改造の日に官房副長官を辞任。郷里の徳島県から参議院選挙に出馬するための準備を始めるが、三木武夫のお膝元で、選挙戦は阿波(三角代理)戦争と呼ばれる熾烈なものとなり、参院選徳島地方区は敗北。金脈問題で田中が首相を辞任、三木が総裁になり、雌伏を余儀なくされる。
- 角栄金脈辞任1974=60歳：参院選徳島全県区で、総理大臣三木武夫と直接対決し、2位で初当選、衆議院議員となる。自民党田中派に所属。選挙の勉強も兼ねて総務局長として東京都議会選挙の指導を任せられる。
- JALハイジャック・1977=63歳：日中友好国会議員団として初の訪中後、二階堂進らと再訪中し、中国共産党副主席の鄧小平らと会談。
- 成田衝突・・・1978=64歳：ユーロコミュニズムの視察のため、欧米諸国を訪問。初の議員予備選挙が導入された自民党総裁選挙で、福田赳夫優勢との当初の下馬評を覆し、大平正芳総裁を誕生させる。
- 革新大敗北・1979=65歳：総選挙徳島全県区で最下位当選(二期目)し、\*第2次大平内閣の自治大臣兼国家公安委員会委員長兼北海道開発庁長官として初入閣、当選回数から見て、異例の抜擢であった。
- 貿易摩擦問題1980=66歳：回総選挙徳島全県区で三木に次ぐ2位当選(三期目)。党の行政調査会副会長として行政改革を研究。
- ・・・1981=67歳：鈴木善幸改造内閣で、党選挙制度調査会会長。
- 中曽根内閣・1982=68歳：\*首相指名を受けた中曽根康弘から内閣官房長官就任請われ、警察で後輩だった者の下には就けないと難色示すも、中曽根の強い信念に受入れ、内外を驚かせた。部下に「後藤田五訓」を提示。レフチェンコ事件、デイズノード 1983=69歳：総選挙徳島全県区のトップ当選(四期目)。中川一郎自殺事件、大韓航空機墜落事件にも対処、中曽根が最大の課題とした行政改革のため、行政管理庁長官から、・・・1984=70歳：改組による総務庁長官となり、三公社民営化を推進するなど、重用されて、田中派の議員から生まれ、中堅若手が竹下登を担いで創政会を旗揚げ、激怒した田中は、その直後に脳梗塞で倒れる。自らは、竹下派と二階堂進グループのどちらにも与せず、無派閥となった。
- ジャンボ機墜落1985=71歳：日本航空123便墜落事故でも、中曽根を支えた。
- バブル始・・・1986=72歳：衆参両院同日選挙で衆院議員に再選(五期目)、三原山噴火に住民の全島避難など、優れた危機管理能力を発揮。第三次中曽根内閣の官房長官に再任、「副総理格」と見なされるに至る。イラン-イラク戦争終結に当たり、海上保安庁船か海上自衛隊艇を派遣する問題が浮上した際に、猛烈に反対、派遣を断念させた。
- 竹下内閣・・・1987=73歳：中曽根内閣解散任期切れに伴い、官房長官を降り、徳島に戻る。この間、竹下登内閣の政治改革委員会の委員長や自民党内に設置された政治改革推進本部の本部長代理、ゾ連崩壊・・・1991=77歳：第15回参院選で再選(六期目)、湾岸戦争が勃発し、アメリカからの自衛隊の多国籍軍参加要請には一貫して反対。PKO協力法案に派遣命令の国会の事前承認なく、その他内容に異論をもつため、本会議を欠席。
- バブル崩壊・1992=78歳：政治改革推進本部答申をまとめ、官制改造内閣に、兼任ポストの法務大臣として久々に入閣するが、55年体制終・1993=79歳：副総理兼外務大臣の渡辺美智雄が病気で辞任すると、宮沢の要請で、法相としては異例の副総理に就任し、大物ぶりを示す。宮沢内閣の不信任案が成立、解散で退任、徳島に戻る。東京サミットの宮中晩餐会に出席直後、救急車で日赤医療センターにはこぼれ、転退院。総選挙で再選(七期目)、日中友好会館会長。
- 妙妙事件・1995=81歳：阪神・淡路大震災が発生するや、首相の村山富市を叱咤激励し、復興委員会の特別顧問に就任。
- ・・・1996=82歳：第41回総選挙に不出馬。政界から引退。3人の子供に伝えた時、二世議員にならないよう頼んだという。
- 金融破綻・・・1997=83歳：社団法人アジアフォーラム日本会議(AFJ)会長に就任。勲一等旭日大綬章。
- ・・・2004=90歳：TBS「時事放談」に17回出演など、政治・行政改革、外交、安全保障問題などで積極的に発言していたが、小泉郵政選挙2005=91歳：「靖国問題勉強会」に出席し、小泉首相の靖国参拝に再考を求めると、行く末について憂慮しながら、順天堂医院で肺炎のため、没した。遺志により、ごく質素な葬儀だった。